

デュパルクの歌曲

— 5つの作品 —

下 山 進

Mélodie de DUPARC

— Cinque pièces —

Susumu SHIMOYAMA

デュパルク (1848-1933) は近代フランス歌曲Mélodieを様式化した代表的な音楽家の一人である。本論では、彼の作曲した歌曲から5曲、1. 「悲しき歌」、2. 「旅への誘い」、3. 「波と鐘」、4. 「フィディレ」、5. 「ラメント」を選び、音楽の要素であるリズム、旋律、ハーモニー、形式およびテキストに用いた詩との融合について、どのように様式化したかを分析し特徴を考察する。あわせて作品の特徴を踏まえて、歌唱表現指導についても述べる。

I. はじめに

デュパルク (Duparc, Marie Eugène Henri, 1848-1933) の作曲活動は、1870-1886年の16年であった。その後は重い神経性の病気にかかり、闘病生活をスイスで過ごし亡くなった。彼は作曲活動するにあたって、フランク (Franck, C. A., 1822-90) にピアノと、さらに後作曲を師事した。デュパルクの作風は後のショーンソン (Chausson, Ernest, 1855-99)、マスネ (Massenet, J. E. F., 1842-1912) およびドビュシー (Debussy, Claude Achille, 1862-1912) に影響を与えた。しかし彼が残した作品は極めて少なく、歌曲のみ16曲である。その内12曲を歌曲集として、ルロール版とインターナショナル・ミュージック版から出版されている。

デュパルクは歌曲のテキストとして高踏派の詩を用いた。それらの作品はラオール (Lahor, J., 1840-1909) から3、ボードレール (Baudelaire, C., 1821-67) およびゴーチエ (Gautier, T., 1811-72) からそれぞれ2、コペ (Coppée, F. E. J., 1842-1908)、L. ドゥリール (L. de Lisle, C. M. R., 1818-94)、シルヴェストル (Silvestre, C., 1889-1948)、プリュドム (Prudhomme, S., 1839-1907) のそれぞれから1、およびその他を用いている。

本論では現存する歌曲から5作品、1. 「悲しき歌」 *Chanson triste*、J. ラオール詩、2. 「旅への誘い」 *L'Invitation au Voyage*、ボードレール詩、3. 「波と鐘」 *La Vague et la*

Cloche、F. コペ詩、4. 「フィディレ」 Phidylé, L. C. de リール詩、5. 「ラメント」 Lamento、ゴーチエ詩を選び、音楽の諸要素ーリズム、旋律、和声、調性、拍子、速度および形式など、さらに詩との融合について分析し考察する。あわせて歌唱表現指導についても述べる。

II. 5つの歌曲についての分析

1. 「悲しき歌」 Chanson triste、ラオール詩、1868年作曲

ラオール (Lahor, Jean, 1840-1909) は高踏派の詩人。彼の作風は一種の虚無敵な厭世観を表現している。なお代表作としては「迷妄」 L'Illusion (1875)、「虚無の栄光」 La Gloire du Néant (1896)、他がある。

歌曲に用いられた詩の構成は、4詩節、1詩節は8詩句、脚韻はfmfm（女性韻はf、男性韻はm）の交互である。デュパルクが用いたこの詩もまさに厭世観を表現している。

詩1

Dans ton coeur dort un clair de lune,	おまえの心に月の光が眠る、
Un doux clair de lune d'été	夏の優しい月の光が。
Et pour fuir la vie importune	わずらわしい人生から逃れるために、
Je me noierai dans ta clarté.	私はその光りに身を沈めよう。
J'oublierai les douleurs passés,	過ぎた苦悩を忘りたい、
Mon amour, quand tu berceras	私の愛する人よ、おまえが揺する時
Mon triste coeur et mes pensées	私の悲しい心と私の思いを
Dans le calme aimant de tes bras!	愛するおまえの腕の静けさに！

以下省略

曲構成は、37小節、速度緩やかにLent、12/8拍子、ハ長調、メロディー様式である。声域はréから1オクターブ上のfa#である。なおこの曲はL. M. スウイネイ氏に献呈されている。

ゆったりとした幅広い複合4拍子である12/8拍子に乗って、終始滑らかに静かに流れる16分音符のアルペジオ音型がゆりかごの揺れを暗示させ、虚無的な厭世観を醸し出している。伴奏部は速度標語に続いて、柔らかく秘めた気持ちでavec un sentiment tendre et intimeと指示されている（譜例1）。第1詩句は伴奏部の和音Do-Sol7/do-Do、第2詩句はRém7-Sol7-Do、第3詩句はDo-FaM7-Sim7-5-Mi7-Rém7-Sol7、第4詩句はDo-Sol7/do上に歌われ、間奏の接続句がDo-Fa-Faaug-Rém7-Mi7と続く。

デュパルクの歌曲

譜例 1

第5詩句は伴奏部の和音Mi7-Lam7-5-Si-Sol7、第6詩句はRém7-Sol7、第7詩句はDo-Dom-La b/mi-Do、第8詩句はMi b/si b-Si b7-Mi b上に歌われる。さらに間奏が続き、伴奏部は接続句として16分音符のアルペジオ音型で、Mi b m-Fa-Si b7-Mi b-Sol7と滑らかに奏される。

第9詩句はFam7-Si b7、第10詩句はFa #-Sol #m7-Fa #7、第11詩句はSol #m7-SiM7-Mi #dim7/ré #-Sim-Réaug-Mi #dim7上に歌われる。また間奏接続される伴奏部は高音に、第11詩句「一つの物語」Une balladeの旋律をまねる（譜例2）。

譜例 2

さらに第11詩句の第5から第8音節は反復され、伴奏部Sidim7/fa-Sol7/fa、第12詩句はDo/mi-Fa-Sol7+4-Do+2、第13詩句はSol7-Do、第14詩句はDoaug/mi-La b7 (fa # = sol b)/fa #-Sol+4上に歌われる。伴奏部後奏句はDo+2-Sol+2の連結を2度反復して原調に戻り、主和音Doの高音にsolを用い不完全で終止させる。なおその間に内声がdo #-ré-ré #-miと半音上進行する。

歌唱指導については、終始12/8拍子のゆったりした揺れを感じて、曲初の指示どおり、さらに非常に優しくtrès douxの指示どおり、柔らかくコントロールされた歌声で表現すること。第2詩節第6詩句「わが愛する人よ」Mon amourは重要なので、作曲者の指示通り、柔らかな声質で歌うこと。この音型は第10詩句感嘆詞「おお!、何度と」Oh! quelque foisとで半音上で、さらに第15詞句第1から第4音節「何度も口づけを」Tant de baisersと拡張されるので、決して乱暴な歌声にならないように留意すること。

2. 「旅への誘い」 L'Invitation au Voyage、ボードレール詩、1870 年作曲

ボードレール (Baudelaire, Ch. P., 1821-67) は代表的な象徴派の詩人。彼の代表作としては唯一の詩集「悪の華」Les Fleurs du Mal (1857)、「小散文詩集」Petits Poèmes en prose (別名「パリの憂鬱」Le spleen de Paris)、他がある。

テキストはボードレールの「悪の華」から用いられている。テキストに用いられた詩の構成は、2 詩節、1 詩節は12詩句、その詩句の音節は不安定な奇数の5音節2と7音節1の3詩句を1とする4組と7音節2の1組であり、脚韻はmmf、mmである。

詩 2

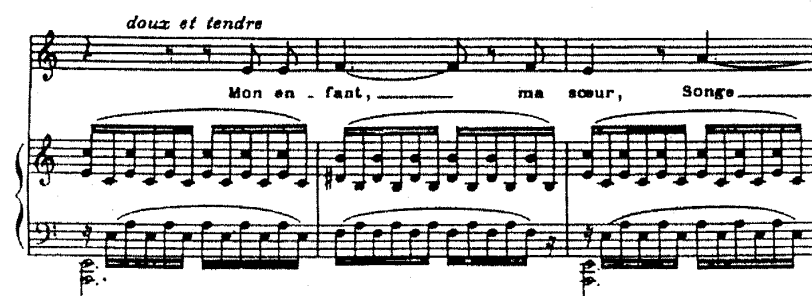
Mon enfant, ma seur,	わが子よ、わが妹よ、
Songe à la douceur	甘い夢を見よう、
D'aller là-bas vivre ensemble,	遙かな地で共に暮らす、
Aimer à loisir,	贅沢を愛し、
Aimer et mourir	愛して、そして死ぬ
Au pays qui te ressemble!	おまえに似つかわしい地で。
Les soleils mouillés	曇り空に
De ces ciels brouillés	霞んだ太陽は
Pour mon esprit ont les charmes	私の心に魅惑は
Si mystérieux	何と神秘的なこと
De tes traîtres yeux,	おまえの裏切りの眼のように、
Brillant à travers leurs larmes.	涙の中に輝いて。
Là, tout n'est qu'ordre et beautés,	そこでは、全てが秩序と美
Luxe, calme et volupté.	贅沢、静寂そして快樂のみ。

以下省略

曲構成は、88小節、形式がA部(31小節)の速度が常にゆっくりPlesque lent、6/8拍子、イ短調、B部(8)の速度が少し速くUn peu plus vite、9/8拍子、A'部(18)、C部(31)の速度がUn peu plus vite、9/8拍子、イ長調、メロディー様式である。声域はmiから1オクターブ上のfaである。なおこの曲はデユパルク夫人に献呈されている。

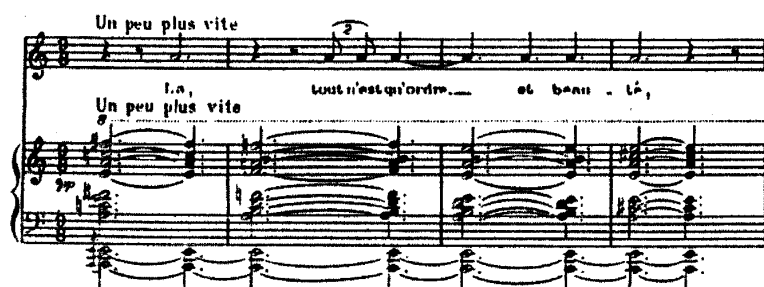
A部は16分音符、トレモロ音型的な分散和音音型で、和音はほぼ短3和音、m7-5および減7和音である。歌い出しは優しく柔やかにdoux et tendreと指示されている。恋人を旅へ誘うのであるから、歌うより語りかけるように始める(譜3)。なお和音は3カ所、第3詩句第7音節「共に」ensembleにLa、第9詩句第4音節「心」espritにLa9、第12詩句第7音節「涙」Larmesに長3和音Laを用い、言葉を強調している。

譜例 3



B部は9/8拍子、Un peu plus viteやや速く、4小節を反復する8小節からなる。伴奏部は主音laと属音miの短前打音を伴った付点2分音符と付点4分音符のタイで4小節奏され、その上にFa # dim、Sim7-5、La+2+4と連結させ、長3和音Laとに変化させる。この間に第13詩句「ああ、そこでは総てが秩序と美」Là, tout n'est qu'ordre et beautéおよび第14詩句「栄華、静寂、そして逸楽あるのみだ」Luxe, calme et voluptéは主音laと属音miの2音のみで静かに語りかける（譜例4）。

譜例 4

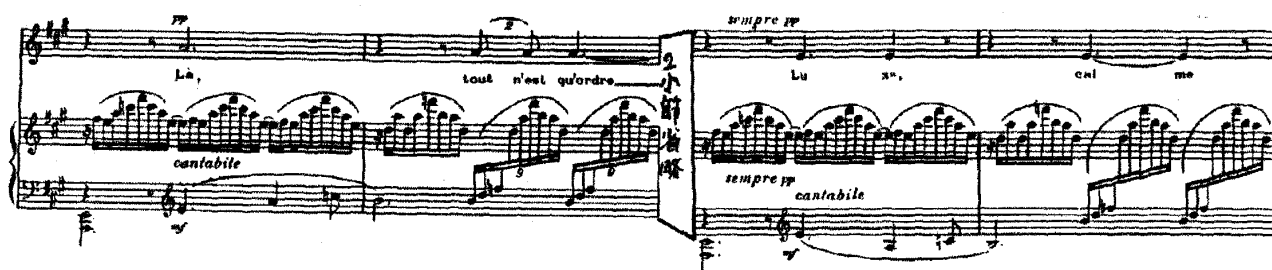


A'部はA部前半10小節を反復し、後半8小節は第18・19詩句がLam+fa # - Sidimの反復、第20詩句がSi7 - Mi/si - Do # m7/si - Fa # m/si - Si7 - Mi上に歌われる。

第40から第49小節は、歌伴奏部とも第1から第10小節を反復する。第18詩句はFa # 7-5 - Sim7-5、第19詩句はFa # 7-5 - Si7、第20詩句はSi7 - Mi - Dodim7 - La/si - Fa # /si - Si7 - Mi上に子守歌のように歌われる。なお第50から第53小節は伴奏部低音が第11から第14小節の第4・5詩句を反復する。

C部第58小節は平行長調の主和音La 9で始まり、第83小節まで伴奏部が16分音符9連、アルペジオ音型で奏される（譜例5）。この音型は第21詩句「沈み行く夕日」Les soleils couchantsを受けて、海面にきらきら反射する情景を連想させる。後奏句は16分音符6連から4連、8分音符3連、付点4分音符へとリズムが徐々にゆっくりと刻まれ、付点2分音符に終止する。

譜例 5



第75・76小節の伴奏部低音は第11・12小節を、さらに第79・80小節は第13・14小節の第4詩句の旋律断片を反復させる。後奏句は伴奏部のリズムが6連符、4連符、8分音符、符点4分音符、符点2分音符と符点4分音符タイと徐々にゆっくり奏され、平行長調の主和音Laで完全終止する。

歌唱指導については、前半第1・2詩句およびB部は語りかける部分と歌う部分とがあるので、声質および表現を明確に使い分けること。特にB部はやや速くの指示があるので、子音の発音に抑揚をつけすぎず明瞭に語りかけようようにすること。なお語りかけの鼻母音は大切にし、鼻腔を開いて響きのある歌声となるよう発音すること。後半C部は平行長調に転調しているので、明るく輝きを持った声質で、良く共鳴させた発声を心がけさせること。

3. 「波と鐘」 La Vague et la Cloche、コペ詩、1871年作曲

コペ (Coppée, F. É. J., 1842-1908) は高踏派の詩人。彼の代表作としては「貧しい人びと」 Le Humbles (1872)、随想散文「良き苦患」 La Bonne souffrance (1898)、他がある。

用いられた詩の構成は、5詩節、1詩節は12詩句、脚韻はfmmfとmffmの交互である。

詩 3

Une fois, terrassé par un puissant bruvage,
J'ai rêvé que parmi les vagues et le bluit
De la mer je voguais sans fanal dans la nuit

Morne rameur, n'ayant plus l'espoir du rivage...

L'Océan me crachait ses baves sur le front,
Et le vent me glaçait d'horreur jusqu'aux entrailles,
Les vagues s'écroulaient ainsi que des murailles

Avec ce rythme lent qu'un silence interrompt...

ある時、私は強い酒によいつぶれ
くだけの高波に向かって
燈火もない夜の海に船を乗り出す夢を
見た。

漕ぎ手は疲れ果て、岸辺に着く望みも
もはやなく、

海原は私の額に唾をとばし、
風は腹の底まで私を恐怖で氷らせた。
大波はひと時沈黙の間をおく
あのゆっくりしたリズムで、
大壁のように崩れ落ちた。

以下省略

デュパルクの歌曲

曲構成は、106小節、速度が非常に速くそして激しく **Aassez vite et tumultueux**、第1から第14小節と第20から第23小節が3/4拍子、第15から第19小節と第24から第106小節が9/8拍子、ホ短調、形式が前奏句4小節を伴うA部（19小節）、前奏句反復4小節を伴うB部（18）、間奏句4小節を伴うC部（21）、間奏句2小節を伴うD部（20）、間奏句リズム変形3小節を伴うE部（22）および後奏句6小節、バラード様式である。声域はsiから完全11度上のmiである。なおこの曲はヴァンサン・ダンディ氏（d'Indy, P. M. Th. V., 1851-1931）に献呈されている。

A部前奏句は第1・第2小節の音型Mimが2度反復され、伴奏部高音にアクセント記号が付された音符が鐘の音を、また中音に16分音符音型が力強い波のうねりを暗示させる（譜例6）。A部前半は1度反復され、さらに同じ音型でDoが奏される間に第1・2詩句第3音節が歌われる。

譜例 6

A部後半第15小節からは、32分音符7連の接続断片句Sol7が奏された後、第3詩句第4音節から一時的にハ長調Doに転調し、さらにMim-Do-Midim (la# = si b) と連結し、第4詩句はDo#dimを経過して原調Mimに戻る。なお第3詩句第4音節からは伴奏部高音にトレモロ音型がMimで、また低音は1オクターブで同詩句の旋律を奏する。

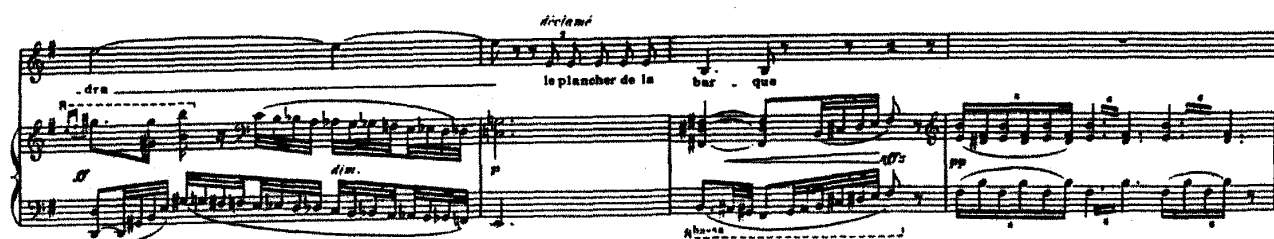
第20から第23小節は、前奏句第1から第3小節を再現する。第5から第8詩句は装飾音符が高音の鐘の音を、16分音符6連が波の碎ける様を暗示させる。第5詩句はRé#im7/mi-Fa#M7-Si#dim7-Fa#、第6詩句はLa#dim7/si-Do#7-La#dim7 (fa× = sol b) -Do#、第7詩句はSol#dim7-Rém-Si b-Do#-Sol#dim7-Fam、第8詩句はDo+4-Do-Lam-Mim-Si7上に歌われる（譜例7）。

譜例 7

なお第33小節の伴奏部高音に、また第35小節の低音に、複付点8分音符と32分音符の鋭く速いリズムの組み合わせが用いられ、はげしい鐘の音を暗示させる。さらに接続句として32分音符の順次上行、siから1オクターブ上のsi、およびfa#から短7度上のmiを用い場面転換をする。

第9詩句からは伴奏部Si#m7-5上に、場面転換を受けて動きをややゆるやかにさせやがて停止する。また低音に32分音符ré-la-si-do#のトレモロ音型が半音下げ、ré-la b-si b-doとゼクエンスされる。しかし第10詩句はまたFa#m7-5-Do7-Mi上に歌われ、鐘の音を連想させる装飾音符とトレモロ音型16分音符の6連符が奏される。同句第7から第9音節「砕け散った」s'enfondraを1小節延ばす間に、32分音符の半音下降進行がMi7-Doと連結し動きが止まる。第11詩句は句またぎenjanbementをしながら主音と属音で歌われ、伴奏部が属和音Si上に32分音符で上行し半終止する（譜例8）。

譜例 8



第54から第56小節の間奏は再びトレモロ音型16分音符6連符が、Si/mi-Solaug/mi-Sim-Si/miと連結後、調性を曖昧にする減7和音Ré# dim7が奏される。第59から第78小節の低音は第55小節の低音を20小節反復させる。第11から第16詩句はDo-Mim-Lam-Si7-Mimの反復連結上に、高音が4分音符、8分音符3連から16分音符へ、さらに低音が複付点8音符と32音符へと徐々にリズムを短く刻み、鐘の音や波のうねりの激しさを増していく。

第17から第20詩句は虚無的な厭世観を、波のうねりと鐘の音が共に激しさを減らすことによって表現する。伴奏部はSi-Sol#m-Mim7、Si-Solaug-Do-Mim-Do7 (la#=si b)-Lam7-Mim-Fa#9-Fa#7-La#dim7-Do#m-La7-La#dim7-Mi-Mimと連結し、後奏句は鐘の音と波のうねりを止めながら、Si-Mimと原調に戻り完全終止する。

歌唱指導については、第1から第4詩節は大自然に立ち向かうので、腹筋および背筋力を十分に用いて、強く幅のある歌唱表現ができるようにすること。しかし第5詩節は腹筋および背筋力を柔軟に用い、一転して虚無的な厭世観を表現できるようにすること。

4. 「フィディレ」 Phidylé、ルコント・ド・リール詩、1882年作曲

ルコント・ド・リール (Leconte de Lisle, Ch. M. R., 1818-1894) は高踏派の先駆的で指

デュパルクの歌曲

導者的詩人、形式を重んじた冷厳な美の創造者。彼の代表作としては「古代詩集」*Poèmes antiques* (1852)、「神々の静寂」*Le Paix des Dieux* (1888)、他がある。

用いられた詩の構成は、4詩節、1詩節は第1および第3詩句が12音節、第2および第4詩句が8音節、脚韻はfmmfとmffmの交互である。

詩 4

L'herbe est molle au sommeil sous les frais peupliers,	苔むした泉に臨む傾斜地の爽やかな ポプラの葉蔭、
Aux pentes des sources moussues,	下草はやわらかく眠りを包む。
Qui dans les prés en fleur germant par mille issues,	泉は花に被われた牧場の中で 幾つもの源から流れ出て、
Se perdent sous les noirs halliers.	黒い林の中へ消えていく。
Repose, ô Phidylé. Midi sur les feuillages	憩いなさい、フィディレよ。 真昼の太陽が木の葉の上に輝いて
Rayonne et t'invite au sommeil.	おまえを眠りに誘っている。
Par le trèfle et le thym, seules, en plein soleil,	クローバやじゃこう草のまわりに
Chantent les abeilles volages;	蜜蜂だけが気忙しく群がって 光りを浴びながら歌っている。

以下省略

曲構成は、77小節、速度がゆったり、そして穏やかに*Lento et calme*、C拍子が第1から第16、第18から第77小節、2/4拍子が第17小節、嬰へ長調が第1から第10小節、第41から第77小節、変ホ長調が第11から第21小節、ト長調が第22から第25小節、変ロ長調が第26から第27小節、ハ長調が第28から第33小節、変ニ長調が第34から第40小節。形式が前奏1小節を伴うA部(10小節)、B部(12)、間奏2小節を伴うC部(17)、間奏2小節を伴うD部(14)、およびE部(14)、および後奏句(9)からなるメロディー様式である。声域はré♭から1オクターブ上のfa♯である。なおこの曲はショーソン氏に献呈されている。

A部前奏は安定した主和音Fa♯4分音符リズムで始まる。第1詩節はゆったりとした主和音を中心に4分音符のリズムで刻まれる。第1詩句はFa♯-Ré7 (si♯=do)-Fa♯-Sol♯7 (準固有和音)上に、第3から第4詩句はSol♯m7-Fa7-Ré♯m-Ré♯dim7 (si♯=do)-SiM7-Réaug-SiM7、Fa♯-Ré♯m-Sol♯m7-Fa♯上に歌われる(譜例9)。なお速度穏やかに*calme*のすぐ後に優しく陰影無しに*doux et sans nuances*と指示されている。

譜例9

CHANT
Lent et calme doux et sans tristesse
L'herbe est molle au sommeil sous les frais peupliers, Aux penées des sources moussues Qui dans les prés en fleurs germent

PIANO
Lent et calme

B部第2詩節は変ホ長調に転じ、伴奏部が変化音を多く用いた8分音符の分散和音でリズムを穏やかに刻み奏される。第5詩句は主和音Mi \flat —同7—Si \flat /mi \flat —Dom7—Mi \flat —Fam7-5—Fa \flat 7、第6詩句はRé \flat —Si \flat —同7と連結してMi \flat へ戻る。

C部第7詩句は8分音符3連から16分音符へとリズムを刻み、Ré—Lam/ré—Fa \sharp m7—La \flat 、第8詩句はSi \flat m7-5/La \flat —La \flat —Do、第9詩句はFa—Si—Rém7—Si、第10詩句「赤い小麦の花は頭を垂れ」La rouge fleur des blés s'inclineはDo \sharp m7—Mi \sharp dim7—La \flat 7、第11詩句「鳥たちは丘に翼をふれんばかりに」Et les oiseaux, rasant de l'aile la collineはFam—Si \flat m7—Mi \flat 7（譜例10）と16分音符の分散和音で情景を描写し、第12詩句はDodim—La \flat 7—Ré \flat —Sol \flat M7—La \flat 7—Ré \flat と経過的に転調し、陰影に豊んだ詩句の内容に合わせ変化音を巧みに用いた和音で表現する。

譜例10

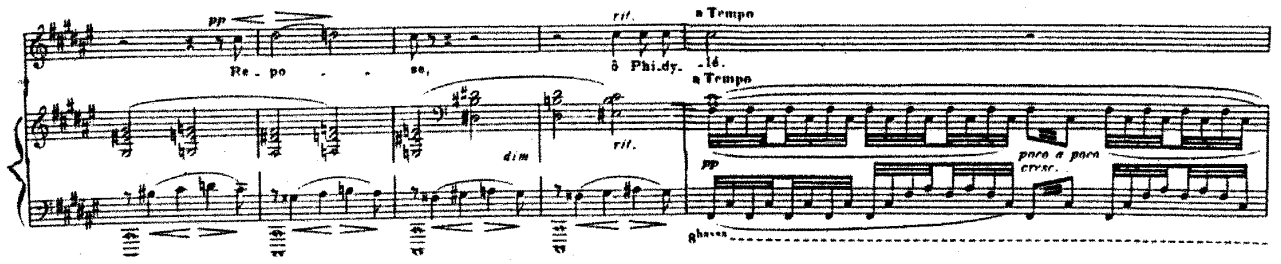
CHANT
dim. sempre dim.
rouge fleur des blés s'incline, Et les oiseaux, rasant de l'aile la colline, Cherchent

PIANO
dim. sempre dim.

再びB'部第41小節からは第11小節の第5詩句「憩いなさい、おお、フィディレよ」Repose, ô Phidyléは変ホ長調から遠隔調の嬰へ長調に転調され、新鮮な表情で反復される。作曲者は第5詩句を重要と考え、旋律の表情を変えて3度反復させている。すなわちFa \sharp —同7—Do7/fa \sharp —Fa \sharp —Sol \sharp 7—Sol \sharp 7-5—Sol7—Mi—Sol \sharp m—Fa \sharp —Do \sharp 7と半音下降進行で変化和音を巧みに連結させFa \sharp へ落ち着く（譜例11）。

デュバルクの歌曲

譜例11



D部第54小節からは32分音符の細かいトレモロ音型で熱情的に歌い上げる。第13詩句はFa #M7-Re7 (si # = do) - Fa # - Si - Do # / fa #、第14詩句はFa # - Sol # 7 - Fa # - Sol # m - Do #、第15詩句はDo # m7 - Ré # 7 - Sol # m - Fa7 (si # = do、ré # = mi b)、第16詩句はLa # dim - Fa # 7、同詩句反復はRé # 7-5 - Ré7 - Fa # - Sol # m7 / do # - Sol # aug - Fa # 7と連結させ、後奏句はトレモロ音型と第14小節の伴奏部高音旋律を反復し、Sol # 7 - MiM7 / fa # - Do # 7 / fa # - Ré # m - Sol # 7 - Sol # m7-5 - Do # / fa # - Ré # 7 (si # = do) と巧みに変化和音を用い、連結させ原調の嬰へ長調に完全終止する。

歌唱指導については、第1詩節をpからmfの幅の音量で言葉の陰影をできるだけ抑えて穏やかに、第2詩節はppで子音を明瞭に発音し、安らかな祈りを表現するようにする。第4詩節は旋律が大きく長く弧を描くように表現されているので、幅のあるそして情熱的でさらに輝きのあるmfからffで表現したい。

5. 「悲歌」 Lamento、ゴーチエ詩、1883年作曲

ゴーチエ (Gautier, T., 1811-72) はロマン派から高踏派の詩人。彼の代表作は「死の喜劇」La Comédie de la mort (1838)、「螺鈿と七宝集」Emaux et Camées (1852)、他がある。

用いられた詩の構成は、2詩節、1詩節は第1、第2、第4、第5詩句が8音節、第3、第6詩句が4音節、脚韻はfmmfmmの交互である。

詩5

Connaissez-vous la blanche tombe
Ou flotte avec un son plaintif
L'ombre d'un if?
Sur l'if une pâle colombe,
Triste et seule au soleil couchant,
Chante son chant.

いちいの影が
悲しげにゆらめく
白い墓をしていますか?
その木の上では蒼ざめた一羽の鳩が
ただ一羽夕陽の中で
悲しげに歌っている。

以下省略

曲構成は、43小節、速度が大変遅く *Très lent* が第1から第24小節、第39から第43小節、やや速く *Un peu plus vite* が第25から第38小節。C拍子が第1から第29、第31から第43小節。2/4拍子が第30小節、ハ短調、形式が前奏2小節を伴うA部（13小節）、A'部（11小節）、間奏3小節を伴うB部（15）、後奏句4小節である。声域はdoから1オクターブ上のmi \flat である。なおこの曲はフォーレ氏（Fauré, G. U.、1845-1924）に献呈されている。

伴奏部前奏は2分音符と4分音符とで、下降する旋律が緩やかな和音、Dom-Sol7-Mi \flat 7（準固有和音）-Dom-Sol-Soldim7（準固有和音）-Domが嘆きを暗示させる（譜例12）。

譜例12

第1詩句はDom-Ladim7-Dom、第2詩句はMi \flat -Si \flat m-Fa \flat -Dom、第3詩句はSol7-Mi \flat 7-Dom、第4詩句はFam-Do-Mi \flat -Dom、第5詩句はLa \flat 7-Ré \flat -Do \flat m-La \flat 、第6詩句はDom-Sol7-Mi \flat 7-Domjの連結上に嘆きを歌う。さらにA部の結尾第6詩句は前奏句旋律を歌伴奏部ともに反復する。なお第14から第24小節、第2詩節第7から第12詩句はA部を反復する。

B部第25から第40小節は、倍速の16分音符分散和音音型でさらに嘆きを強調するかのよう奏される。また間奏句、第25・26小節は完全4度下でDom-Ré \flat aug-Fam-Solm-Ré \flat dim(sol=la \flat \flat)-Domと連結し、第1・2小節の旋律を模倣し奏される（譜例13）。

譜例13

第13詩句はLa \flat -Fam7-Fa \flat -Ré7-La \flat -Fam7-Soldim7、第14詩句はRé \flat m-Sol7、第15詩句はDom-Sol7-Mi \flat 7-Dom、第16詩句はSol \sharp m-Mi7-La7、第17詩句はFa \sharp 7-Mi \flat 7、第18詩句はFam7-5-Sol7と連結上に歌わせ、原調ハ短調の主音Domに解決

する。後奏句は前奏句を反復し伴奏部高音にDomの第5音を用い不完全終止する。

なおこの詩は、すでにベルリオーズ (BERLIOZ, L. H., 1803-69) が歌曲集「夏の夜」Nuit d'été, Op. 7-1~6 (1834)の第5曲「墓場にて」Au cimetièreとして作曲している。

歌唱指導については、前半A部は優しさのあるpで、8分音符連続は明瞭に語りかける発音で、特に子音と鼻母音に神経を使い発声すること。後半B部の第28小節第13詩句は音および詩の内容が高揚して行くので、嘆きの頂点となるようなfで表現すること。

Ⅲ. おわりに

デュパルクの歌曲についての特徴は、上記Ⅱの歌曲分析から、1. リズムについては分散和音型、トレモロ音型、および切分音、2. 旋律については語感を生かした変化音、半音階および異名同音の使用、3. 和声については変化和音、m7-5和音、減3・7和音および増3和音、しかし要所では機能を強めた主属和音の使用、4. 調性については近親調は勿論、詩句の内容にあわせた遠隔調への一時的・経過的な転調、5. 形式については詩節ごとのまとのみでなく、詩句またぎによる音楽の連続性。この1から5のとおり、デュパルクの歌曲は象徴派あるいは高踏派のテキストを用い、語句の表情にあった感覚的な音を使用して、詩と音楽とを精緻に融合させた。即ちデュパルクは近代フランス歌曲Mélodieを確立した一人といえる。

歌唱指導については、先ず語句の持つ意味や情景を良く理解させる。次に必ず朗読させフランス語の持つ抑揚やリズムを自然に発声表情できるようにさせる。さらにデュパルクの歌曲の特徴を分析してから歌唱表現をさせること。

参考文献

- ・ HENRI DUPARC Mélodies, No2. voix moyennes, ROUART, LEROLLE & Cie. SALABERT
- ・ DUPARC 12 SONGS medium Sergius KAGEN International music com.
- ・ Duparc & Schumann, C. Panzera, M. P. Baillot, 家里和夫訳、TOCE-8571
- ・ LES MÉLODIES DE DUPARC, C. Panzera, M. P. Baillot, GR-2035
- ・ Mélodies françaises, H. Duparc, C. Panzera, M. P. Baillot, CDH7-64254-2
- ・ Ch. ケックラン、和声の変遷、清水脩訳、音楽之友社、昭和56
- ・ 松平頼則、近代和声学、音楽之友社、昭和44
- ・ MARIE-CLAIRE, HISTOIRE DE LA MUSIQUE, BORDAS, ISBN:2-04-15303-9, 1982
- ・ Brigitte et Jean Massin, Histoire de la Musique OCCIDENTALE, Fayard, ISBN:2-213-01660-7, 1985
- ・ 「デュパルク」、標準音楽辞典、音楽之友社、昭和41
- ・ フランス文学辞典、日本フランス語フランス文学会編、白水社、1974
- ・ 鈴木信太郎、フランス詩法、上下、白水社、1970